

2022 年 7 月 20 日

EU とのエネルギー分野における戦略的パートナーシップに関する覚書

18 日、バクー訪問中のフォン・デア・ライエン欧州委員会委員長は、アリエフ大統領と会談し、EU とアゼルバイジャンの間の「エネルギー分野における戦略的パートナーシップに関する新たな覚書」に署名しました。

「アゼルバイジャンは EU の重要なパートナーで、信頼できる戦略的エネルギー・パートナー」（「フ」委員長）と語るなど、今次覚書は EU 側からの強い働き掛けにより締結されたようです。

双方の報道発表によれば、覚書には 2027 年までに南部ガス回廊（カスピ海～欧州）の輸送容量を倍増し、アゼルバイジャンから EU へ 200 億 $\text{m}^3$ の天然ガス供給（昨年実績 80 億 $\text{m}^3$ ）を行うコミットメントが含まれています。EU にとっては、ロシアからの天然ガス供給削減を補うのに役立ち、エネルギー安全保障に資する成果と言えます。

また、覚書では再生可能エネルギーに関する協力についても取り上げており、「フ」委員長は、「アゼルバイジャンは、特に洋上風力とグリーン水素の大きな可能性を秘めており、徐々に化石燃料供給国から、EU にとって非常に信頼性の高い再エネ・パートナー国へと進化するであろう」と述べています。（カスピ海の洋上風力のポテンシャルについて、アリエフ大統領はいつものとおり、「157GW」という数字を語っていました。）

「今日の覚書は未来へのロードマップのようなもの」（「ア」大統領）とあるとおり、今後 EU とアゼルバイジャンとの間の協定締結に向けた取組を加速化させる意向です。具体的には、経済連携の拡大、カスピ海を横断する連結性の向上（「EU のグローバル・ゲートウェイ戦略の使命」、安全で安定・繁栄した南コーカサスへのコミットメント（地雷除去支援等）などが追求される模様です。

以上のエネルギー安全保障、再エネ・脱炭素取組、連結性の問題などを巡る協調関係に加え、EU は最近のアゼルバイジャン・アルメニア二国間和平構築プロセスでも仲介役として積極的な動きを見せるなど、EU とアゼルバイジャンとのパートナーシップは顕著に進展しており、今後の政治、経済、エネルギー等各分野での動向が注目されます。

（以上）